

東南アジアの錫鉱業切手

P. Q.



錫は銅と共に青銅を作るために人類によって最も早く利用された金属の一つである。錫の鉱石として重要なものは錫石であり 天然に溶解作用に対する抵抗力が強くまたその比重も約7と大きいために 容易に濃縮され選鉱に便利であって 砂鉱床から採掘されることが多かった。もっともヨーロッパの青銅文化はキプロスの銅とコーンウォールの錫から成立した。

現在でも世界の錫の生産の60-70%は砂錫であり マレー半島地区は更にその大部分を占めている。

錫鉱床の生成は基本的には花崗岩に関係している。ペグマタイト鉱床 気成-高温熱水鉱床 ゼノサーマル型鉱床 接触交代鉱床などであるが この中重要なのは気成-高温熱水鉱床である。

中国南部からタイ-ビルマ国境地帯を通り マレー半島を抜けて インドネシアのバンガ島とブリトン島に到る中生代の花崗岩地帯は 世界最大の錫の鉱化帯である。この花崗岩は気成-高温熱水鉱化作用を受けて鉱脈状あるいは網状に鉱床が発達し その他にペグマタイト鉱脈と接触鉱床が認められることもある。局部的にはあるが錫石が初生鉱物として花崗岩中に散点することもある。マレー半島及びその周辺ではこれらの花崗岩から洗い出された錫石が表土層・河川・海岸・海底

に残留鉱床や砂鉱床を作っている。

ブリトン島の錫石は12世紀の末に海岸の砂から発見され 15世紀末まで主に中国人が採取していたと伝えられる。1710年頃からオランダ人によってパンカ島が開発された。初めは初生鉱床に近い残留鉱床の採掘が主であったが 開発は次第に大規模化し 海底錫石の探査と花崗岩内の初生鉱床中の錫石を水洗によって採取する方向に向っている。

25 C マラヤ 1957年発行 錫鉱石のドレッチ風景

2 b タイ 1969年発行 バンコクで行われた国際錫会議記念。国際錫会議は生産国と消費国から構成され 生産と価格の安定を計る努力がなされている会議。日本も加入しているが、最近はその機能が失われたと伝えられる。

4 C 1943年 マレーを占領した軍政府が発行したものの。小舟で2人の人間が錫を採取している。戦後との比較のためあえて掲載したもの。

15・20・50 C マレーシア 1974年発行 クアラルンプールで開かれた第4回国際錫会議を記念したものの。50Cは礫層をポンプで崩している。20Cは露天掘。50Cは錫のインゴットの中にドレッチしている図を入れたもの。採掘が次第に大型化して来るのがうかがえる。